



衣川製鎖

鉄のふしぎ? 博物館

■7

子どもたちは磁石が大好きです。磁石同士を近づけるとパチンとひっついたり、反発したりします。砂鉄やゼムピンをひつつける不思議な力を持っています。小さな子どもは塗り絵をした魚にゼムピンを付けて魚釣りを楽しみます。付き添いで来られたお母さんやお父さんも例外ではありません

採薬使(さいやくし)



江戸時代の方位針 (コンパス)

冷蔵庫の扉やホワイトボードに付いている黒い磁石(フェライト磁石)が発明されたのは1930年の日本で、まだ80年

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。

「この石(コンパス)が磁石にほとんどか経っていません。この発明が磁石の普及を推し進め、一般によく使われるようになったのです。人工の磁石が誕生してまだ100年余りなので。そう説明すると「もっと昔から方位針はありますが、それはどのようにして作ったのですか?」と質問が出来ます。江戸時代、千石船の航海や鉱山の坑道を測量するために、方位針(コンパス)を使っていました。磁針は天然磁石で針を擦り、利用しました。その天然磁石は中国やヨーロッパからの輸入品です。1709年、貝原益軒(かいばらえっけん)の出版した薬物学の本『大



塩釜神社でもらった天然磁石(餅鉄)

行し、その一つが採薬使の派遣です。幕府は各地へ採薬使を派遣し国内で産出する薬物や有用品の探索と採取を目的とし、あわせて地元の人々に何が役立つかを教えました。1727年、南部で磁石が発見されました。阿部友之進らは採薬使として奥州南部藩伊郡久志村(岩手県釜石近く)で昔から「慈石がとれる」と伝えられていることを

知り、慈石を採取。この山(久志)もつばら磁石を産す。予親しくこれを目撃するときは、その色黒赤褐にて星点あり。能く鉄を吸い、漢渡(中国産)のものより異ならず」とあります。(阿部友之進『採薬使記』松岡玄達「本草一家言」による)。

『鉄のふしぎ博物館』では塩釜神社でもらった天然磁石(餅鉄)、岩手県上閉伊郡大槌町(かみへいぐんおおつちちょう)の天然磁石と磁鉄鉱などを展示しています。磁石は江戸時代に発見されたものと同じかな? (磁力が少し弱いように思われます)。

参考図書 「磁石の魅力」(板垣聖宣著 仮説社 1991年 第7刷)